



# 赤目まちづくり委員会・市民センター たきこちゃん通信 6

2021年  
月号

発行/赤目まちづくり委員会(赤目市民センター)〒518-0465名張市赤目町丈六238-1 電話/FAX63-0329 E-mail/akame-ko@emachi-nabari.jp

## 新年度のスタートにあたり。

赤目まちづくり委員会 会長 亀本和丈

見わたす水田は緑一色となり、秋の実りを夢見ながらそよ風にゆられている中、地元酒蔵の湯けむりが立ちのぼる早朝の光景は何ものにも変え難い長閑な、そして誰にも愛される赤目の田舎町であろうかと思われます。

平素皆様方には、赤目まちづくり委員会並びに赤目市民センターの諸活動に格別のご理解とご協力を賜り衷心よりお礼と感謝を申し上げます。一昨年前より始まった新型コロナウイルスの感染拡大は止まる事無く暗闇のトンネルの如く未だ出口さへ見えず不安な日常生活にうんざりしている実状ではないでしょうか？

然し日時は止まる事無く経過し、まちづくりの定期総会につきましては昨年に続き今年も書面をもっての表決とさせて頂き、理事並びに実行委員様のご理解とご協力を得た処であり、また先日(5月29日)は、令和3年度第一回役員並びに区長部会の合同会議を開催し実質的な新しい年度事業がスタート致しました。

赤目町10区10名の区長様の中で一の井区・星川区・長坂区の三地区が改選交代と相成りました。各地区に於いて何かとお世話を頂き区行政にご尽力頂きました旧の区長様に、心よりお礼と感謝を申し上げますと共に今後共ご指導賜りたくお願い申し上げます。合わせまして新しく就任されました区長様におかれましては、各区区行政のお仕事は勿論私達まちづくりの諸活動を通じ、地域が明るく、また楽しく、健康長寿を願いながら安心安全な生活の遂行に更なるご協力をお願い申し上げ、令和3年度スタートの一言と致します。

## 赤目まちづくり委員会・市民センターの取り組み

新型コロナウイルス感染拡大防止の「三重県まん延防止等重点措置」の6月20日までの延長を受けて、赤目まちづくり委員会・市民センターの自粛並びにサークル活動・会場施設の開館時間を9時より20時までとさせて頂いています。今後の状況により変更の場合があります。

## まん延防止等 重点措置

名張市適用中

延長

6/20まで

※状況によって、  
変更の場合あり

▶ 感染力の強い変異株ウイルスが急拡大 ▶ 医療提供体制が逼迫

全力を挙げて感染防止を

✓ 基本的な感染対策の徹底を！

(マスクは隙間をつくらず正しく着用・手洗いや消毒は時間をかけて丁寧に・こまめに換気)

✓ 日中も含め不要不急の外出や移動を避けて！※

✓ 20時以降、飲食店への出入りを避けて！※

✓ 屋外でも大人数・長時間の飲食を避けて！※

※特措法に基づく要請

名張市・

名張市新型コロナ  
特設サイト



## 赤目地区・投票所の変更

次期執行される衆議院議員総選挙から、投票所が「赤目市民センター」に変更になります。

名張市選挙管理委員会 TEL.63-7314

名張市指定ゴミ袋取扱、紙おむつ専用ごみ袋(無料交付)  
特大45リットル10枚480円・大30リットル10枚300円・  
中20リットル10枚180円・小10リットル10枚80円  
紙おむつ専用ごみ袋は、対象者一人当たり30枚以内。

赤目まちづくり委員会  
赤目市民センター  
ホームページ



赤目まちづくり委員会・市民センターの情報が  
ホームページでご覧いただけます。  
※スマホ・携帯電話でQRコードを読み取って  
下さい。  
また市民センターでは、無料Wi-Fiが使えます。

## 『あかめ竹あかりSDGsプロジェクト』の活動

赤目の地域資源の一つである「竹」の活用を通じ地域の「世代間の交流」「郷土愛の醸成」「環境意識の向上」や「コミュニティビジネスの創造」まで、地域が主体となった「環境・社会・経済」の持続可能な循環型社会の構築を目指す目的の活動です。

今回その「商品化への体験プログラム」として、出前で各区に「竹あかりづくり」をご案内いたします。詳細については、各区までお申し込みをお願い致します。



＜今後の活動予定＞ 実施予定月

- 環境学習の開催 10月中旬～11月中旬
- 竹あかりづくりワークショップの開催 8月(2回)  
(対象：小学6年生)
- 竹を活用したモニターイベント 10月  
(先着20名)
- 竹あかり夕涼み会(地域イベント) 7月22日  
(於：赤目市民センター)
- 体験観光プログラム 11月  
(於：赤目四十八滝キャンプ場)
- ◆実施日など詳細は、別途ご案内致します。

皆さん、奮ってご参加ください！！

## ホタル観賞の案内

赤目のゲンジボタルを鑑賞しませんか。



6月の赤目には、大粒の源氏ボタル「丈六ボタル」が飛来。蛍のことを学んで、赤目の自然に親しもう。

日 時／6月19日(土)19時30分～20時30分

集合場所／赤目市民センター 小雨決行

講師／吉岡正夫さん

観賞場所／柏原・風呂屋橋から垣添橋周辺

注意事項／歩きやすい服装、懐中電灯持参

ホタルを捕まえないでください。

低学年は、保護者同伴をお願いします。

\*申込み／6月11日(金)までに、赤目市民センターへお申し込みください。

電話／63-0329 (検温・マスク着用でコロナ対策をしてお越し下さい。)

※駐車場は赤目市民センターをご利用ください。(名張ケンコー！マイレージポイント対象)  
(新型コロナウイルスの感染予防の為、状況により中止・自由観賞になる場合があります。)

赤目市民センター「ホタル観賞会」に参加を申し込みます。

ふりがな

名 前／ (年齢 歳)

住 所／ 電話番号／



### 不審電話にご注意！！

「お金が戻ってくる」「ATMで還付金を受け取れる」「介護保険の払い戻しがある」などは、還付金詐欺です。知らない人から電話があったら、いったん切り家族・知人、警察などに相談ください。名張警察 62-0110 名張市役所・市民相談室 63-7416

## 6月7日～7月4日までの予定

| 月   | 火      | 水                      | 木                   | 金  | 土            | 日  |
|-----|--------|------------------------|---------------------|----|--------------|----|
| 6/7 | 8      | 9<br>ふれあいサロン<br>中止     | 10                  | 11 | 12           | 13 |
| 14  | 15     | 16<br>ELP 健康教室<br>中止   | 17<br>サンサンカレー<br>中止 | 18 | 19<br>ホタル観賞会 | 20 |
| 21  | 22<br> | 23<br>ふれあいサロン<br>忍たま広場 | 24                  | 25 | 26           | 27 |
| 28  | 29     | 30                     | 7/1                 | 2  | 3            | 4  |

※赤目市民センターでは、コロナ対策として、検温・マスク着用・消毒・換気、名簿の作成など、3密(密集・密接・密閉)を避けて運営しています。しかしながら状況に応じ、中止・延期になる場合がありますので、ご注意お願い致します。

※センター主催講座、新年度各サークル紹介の詳細は、今後配布のチラシ・回覧をご覧ください。

### 7・8月の行事予定



- ★7/14(水) ふれあいサロン
- ★7/25(日) 竹風鈴づくり
- ★7/27(火) 市民大学講座「伊賀・名張の地震について」
- ★7/28(水) ふれあいサロン・忍たま広場
- ★8/1(日) 小学生 Day キャンプ
- ★8/7(土) 赤目なつまつり

令和3年度の市民センター活動及びサークルの会員募集・サークル紹介を随時させていただきます。体験入学等詳細は、ご気楽に連絡ください。

赤目竹あかりSDGsプロジェクトでは、竹細工・竹あかりの製作をされる方を募集しています。詳細は、市民センターまで。 ☎63-0329

## Vol.17 歴史散策紀行…「赤目文化遺産」 (各区・地域の名所・名品を募集しています。)

### 赤目の米づくり

日本のお米は主にジャポニカ米で、約3,000年前の縄文時代に大陸から稲作技術とともに伝わった。本来は陸稲(りくとう／おかぼ)で、畑で栽培されるイネ(稲)でした。

赤目でとれる「伊賀米コシヒカリ」は、日本穀物検定協会の食味ランキングで最上位の「特A」を7年間で6回受賞。美味しさの秘密は、昼夜の気温差が大きい盆地気候、古琵琶湖層の肥沃な粘質土壌、淀川水系源流の清らかな水など、米作りに適した自然環境です。

春のはじめに、「田起こし」田んぼの土を掘り起こし、細かくして、肥料をまき、土を平らにならす。明治初期までは、一年中水を湛えた「湿田」で、今私たちが目にする田んぼは「乾田」で、秋の稲刈りの前には水がありません。春に深く耕し、土が細かく練り上げられ、地力を向上させ収量を増やす方式。これが明治時代に奨励された田起こしの方式です。

稲はもともと熱帯の作物で、日本の土壌はお米を育てるのに向いていません。しかし、水を溜めるという大発明で、すべてを解決。温帯で安定的に栽培できるのも、この発明のお陰です。稲の切り株や刈り草、レンゲなどの有機物を鋤き込み、微生物やミミズなどが分解して養分を作る。これが有機質肥料で中に、窒素・リン酸・カリなどの養

分が含まれる。田んぼ作りの第一歩は、水の確保。「畦(あぜ)塗り」は、田んぼを囲む壁に土を塗り付けて、割れ目や穴を塞ぎ、防水加工をする。モグラやケラが開けた穴から水が漏れるのを防ぎ、養分を含んだ川の水を溜めて、肥料分を供給する。水が漏れると、除草剤や肥料の効果も低下する。

次に「代掻き(しろかき)」で、田起こしが完了した田んぼに水を張って、土をさらに細かく碎き、丁寧にかき混ぜて、表面を平らにする作業。田植えの4～5日前に行い、土を落ち着かせる。均平精度が高いと、田植えの後も苗立ちが均平になり、成長のムラも無く、高品質につながる。

今はJAで苗を購入しますが、苗代田(なわしろだ)で12～15cmほどに成長した苗を、田んぼに移植する作業が「田植え」。昔は手で1つ1つ苗を植える重労働で、現在では田植機を使って等間隔に植える。

ほとんど地産地消ではあるが、機械化が進み赤目の山間部ほど美味しい貴重なお米がとれる。雑草取りや水の管理・草刈など手間暇をかけて、秋には黄金色の実り多い田んぼが広がります。水田に朝日や夕日が映り込み、綺麗な水鏡の景色は苗が伸びる前の6月中旬までが見ごろ。

